

知財業務におけるAI導入の8段階：リスクと成果の最適バランス

レベル1～8：
個別作業から自律的なオーケストレーションへ

「影響度(Stakes)」に基づく 適正レベルの選択

クレーム作成など失敗の代償が大きい業務は、レベル2～3(人間による逐次承認)に留めるべきです。



特許出願(クレーム作成)

推奨レベル: レベル2～3

理由・リスク対策: 権利範囲を左右するため、人間がリアルタイムで並走またはステップごとに検証。



特許翻訳(外国出願用)

推奨レベル: レベル4

理由・リスク対策: 定型的な言語変換。機械翻訳後の人間による緻密な修正(ポストエディット)が実務的。



契約書自動レビュー

推奨レベル: レベル5

理由・リスク対策: タスク分解された構造化ワークフロー。法的リスクを多段階で評価し、最後は人間が判断。

レベル4の境界線

「途中の承認」を手放せるか

特許翻訳のポストエディットのように、最終成果物のみを確認する状態がレベル4の指標です。

安全な導入のための 「3原則」と「統制要件」

上り方の3原則: 言語化・適正選択・リスクリング

ベテランの暗黙知をルール化し、人間は「作業員」から「高度なチェッカー」へ役割をシフトします。

最低統制要件: Human-in-the-loopの徹底

権利放棄や出願指示などの重要決定は、必ず人間が最終承認を行い、そのログを保存します。

入力データの厳格な区分管理

未公開発明や秘密情報は、学習利用されないオプトアウト環境への入力に限定する必要があります。

